

作成して全戸に配布することは考えていない。町内でもスズメバチに突然遭遇し、不運にも刺された人もあるようなので、スズメバチの習性を理解して行動し、被害防止に努めていただくとともに、刺された場合適切な処置を講じていただくことなどを、広報等を通じて周知し、注意を呼びかけていきたいと考えている。

**問** 公共施設における駆除について。  
**答** 専門的な技術のない職員が、スズメバチの巣の撤去などの駆除を実施することは、大変危険性が高いため、今年度から直営では行わないことにしている。公共施設にスズメバチの巣があるときは、担当課の方で専門業者などに依頼して、駆除を実施したいと考えている。

**問** 生活保護世帯等に対する駆除の補助について。  
**答** スズメバチの駆除を専門業者などに依頼したときの費用は、営業場所や巣の大きさなどの条件により差があり、外から見えていて作業しやすい場所では数千円まで、天井裏の巣や大型の巣の撤去は、1万5千円から2万5千円くらいの費用が必要である。以上のような町内における駆除費用の実態や年間の件数が少ないことなどから、町独自の補助制度の実施は、現在のところ考えていない。

**問** 駆除請負業者の指定、指定業者・請負金額一覧表の公表について。  
**答** 現在、住民の方からスズメバチ駆除の相談を受けた場合、町の方から、専門業者2社と個人請負者2名を紹介しており、住民の

方が、直接業者等に依頼をして、スズメバチの駆除を行っている。個人の請負にも助けられて、町内全域において駆除することができている状況となっているので、業者の指定をして駆除を実施することは、現在のところは考えていない。請負金額の公表も、町が外注しているわけではない。請負金額は、営業の実態等により多様なため、定めることができないのではないかと考えている。

**問** ペットボトルを使った簡単なハチとり器の設置について。  
**答** 他の自治体で行われた捕獲調査によると、効果がみられたということがあるが、一方で、スズメバチ以外の蛾なども一緒に捕獲することになるなど生態系保全に問題があるということなので、現在のところは設置する考えはない。

**問** 携帯電話や小型電子機器のリサイクルシステムづくりについて。  
**答** 町内の販売店は2社あるが、2社とも無償回収しており、リサイクルも専門的に行っている。町としての携帯電話のリサイクルシステムづくりは、現在のところ考えていない。小型家電機器は、現在、粗大ごみとして回収を行っており、業者によりリサイクル処理をしているので、リサイクルシステムはできていると考えている。

## 井上 博 議員

**問** 町立北宇和病院について。  
**答** 今後の運営について。

**問** 地方病院の医師不足は、全国的な問題となっているが、行政は

もちろん、指定管理者である旭川荘とも連絡を取り合いながら、まずは医師確保を最重点課題として鋭意努力している。現在の医師数は4人であり、来年度以降県からの医師派遣がない場合は、医師3人体制も考えられるが、最低でも現有医師数を確保していきたいと考えている。

**問** 内科医が2人になった場合の病院の存続について。  
**答** 医療法では、病院に置くべき医師の標準数は最低3人とされており、常勤医師を3人配置する必要があるが、診療科ごとの医師数による規定はないことから、診療所扱いにはならないものと認識している。

**問** 今年度の収支見込みについて。  
**答** 平成20年度は、診療報酬等の収入時期が2カ月遅れで、収益が確定しているのが3カ月分であることから、現段階では収支予想金額を示すことはできない。平成20年8月末現在の対前年同期の患者数で比較すると、一般病棟入院患者数は、平成19年度が6,338人に対し、平成20年度は6,874人で、536人の増。療養病棟入院患者数は、平成19年度が5,856人に対し、平成20年度は6,026人で、170人の増。外来患者数は、平成19年度が19,013人に対して、平成20年度は17,000人で、2,013人の減となっている。入院患者数の増加は、夜間看護体制の見直し等の経営努力によるものと考えられるが、外来患者数は、泌尿器科の休診により減少しているものと考えている。

今年度の収支は、医師数が医師

配置標準数の70%を割ったことによる入院基本料の減額と、泌尿器科医師が確保できなかったことによる人工透析治療等の収入減が見込まれるため、平成19年度よりも悪化が予想される。今後も、病院の存続のため、医師確保対策はももちろん、一層の経費削減に努力していきたい。

**問** 鬼北町・松野町の合併について見えるが。  
**答** 合併協議を急いでいるように見えるが。

**問** 山本議員への答弁で答えたように、松野町との合併協議を進めていく上で、今回の合併特例法の期限については、十分に頭の中に入れておく必要があるのではないかと考えている。  
**問** 松野町との合併によるメリツトは。  
**答** 山本議員への答弁で答えたように、二つの自治体の一つの自治体になることによって、行財政運営上もスケールメリットが発生すると考えている。合併をしても、確かに、非常に厳しい財政状況が続くと思われるが、行政改革の推進を図り、効率的な財政運営に努めることによって、安全で安心して生活のできる町として生き残れると考えている。

**問** 町長の進退との関係について。  
**答** 今限りで引退したいと考えている。ただ、進退に関わらず、これまで任期中に起きた様々な問題に対しては、解決に向け一杯努めてきた。松野町との合併問題は、鬼北町の将来を左右する大きな問題であり、これまでと同様、全身全霊、問題解決に向けて努めており、任期中に急いでとか、進退がどうのこうのという意識は毛